

第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会
テーマ及びスローガンについて

1 テーマ(愛称)

「美の国あきた鹿角国体」

【選定理由】

本県の四季折々の美しい自然や長年にわたって育んできた伝統行事など、「美の国」にふさわしい本県の魅力と「スキーと駅伝のまち」鹿角を、国体を通じて、県内はもとより全国に発信していきたいという思いが込められている。

2 スローガン(合言葉)

「伝えよう感動 繋げよう絆」

【選定理由】

選手たちの力と技による熱戦の感動を全国に伝えるとともに、東日本大震災の発生から10年を迎える今、更なる復興に繋げるべく秋田から再び絆を強めていこうという願いが込められている。

※上記テーマ及びスローガンの規定書体は、公式ポスターのデザインに合わせ決定し、第4回国民体育大会委員会が発表する予定です。

第77回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

会期及び会場について

1 会 期

令和4(2022)年1月24日(月)～1月30日(日)の7日間

(1) スケート競技会

令和4(2022)年1月24日(月)～1月28日(金)の5日間

(2) アイスホッケー競技会

令和4(2022)年1月26日(水)～1月30日(日)の5日間

2 会場地

栃木県日光市

3 日程及び会場

会 場 地	式典・競技	日程							会 場	
		令和4(2022)年1月								
		24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日		
日 光 市	開始式	◎							日光市今市文化会館	
	表彰式 (スケート)					◎			日光市霧降スケートセンター	
	表彰式 (アイスホッケー)							◎		
	ス ケ ー ト	スピード		○	○	○	○			日光市霧降スケートセンター
		フィギュア	○	○	○	午前 ○				栃木県立 日光霧降アイスアリーナ
		ショート トラック	○	午前 ○						今市青少年スポーツセンター 屋内スケートリンク
	アイスホッケー				午後 ○	○	○	○	栃木県立 日光霧降アイスアリーナ	
				○	○	○	○	○	日光市細尾ドームリンク	
				○	○				今市青少年スポーツセンター 屋内スケートリンク	

《凡例 ◎開始式・表彰式 ○：競技日》

第77回国民体育大会 競技会会期

式典	会場地	会 場	第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	第6日	第7日	第8日	第9日	第10日	第11日
			10/1 土	10/2 日	10/3 月	10/4 火	10/5 水	10/6 木	10/7 金	10/8 土	10/9 日	10/10 月	10/11 火
総合開会式	宇都宮市	(仮称) 総合スポーツゾーン新スタジアム	◎										
総合閉会式													◎

【正式競技】

競技（種目）		種別	会場地	競技会場	競技 日数	第1日 10/1 土	第2日 10/2 日	第3日 10/3 月	第4日 10/4 火	第5日 10/5 水	第6日 10/6 木	第7日 10/7 金	第8日 10/8 土	第9日 10/9 日	第10日 10/10 月	第11日 10/11 火	
陸上競技		全種別	宇都宮市	（仮称）総合スポーツゾーン新スタジアム	5							●	●	●	●	●	
サッカー		成年男子	宇都宮市	栃木県グリーンスタジアム	3		●		●	●							
				宇都宮市河内総合運動公園陸上競技場	2		●	●									
			さくら市	さくら市総合公園さくらスタジアム	2		●	●									
		少年男子	真岡市	真岡市総合運動公園陸上競技場	4		●	●	●			●					
				真岡市総合運動公園運動広場 1	2		●	●									
			下野市	下野市大松山運動公園陸上競技場	3		●		●	●							
		少年女子	益子町	益子町南運動公園陸上競技場	2		●	●									
			矢板市	矢板運動公園陸上競技場	3			●		●	●						
				矢板運動公園サッカー場	2				●	●							
		那須塩原市	那須塩原市青木サッカー場グラウンドB	2			●	●									
テニス		全種別	宇都宮市	栃木県総合運動公園テニスコート	4		●	●	●	●							
				宇都宮市屋板運動場庭球場	4		●	●	●	●							
ボート		全種別	栃木市	谷中湖特設ボートコース	4	●	●	●	●								
ホッケー		全種別	日光市	今市青少年スポーツセンター人工芝競技場	5		●	●	●	●	●						
				日光市ホッケー場	5		●	●	●	●	●						
ボクシング		成年男子 成年女子 少年男子	日光市	日光市大沢体育館	5						●	●	●	●	●		
バレーボール	6人制	成年男子	佐野市	佐野市アリーナたぬま	4							●	●	●	●		
		成年女子	鹿沼市	TKCいちごアリーナ（鹿沼総合体育館）	4							●	●	●	●		
		少年男子	宇都宮市	宇都宮市清原体育館	4							●	●	●	●		
		少年女子	宇都宮市	宇都宮市体育館	4							●	●	●	●		
体操	トランポリン	男子 女子	茂木町	茂木町民体育館	1									●			
バスケットボール		全種別	宇都宮市	（仮称）総合スポーツゾーン新体育館	5		●	●	●	●	●						
				宇都宮市体育館	2		●	●									
				栃木県立宇都宮工業高等学校体育館	1		●										
レスリング		成年男子 少年男子 女子	足利市	足利市民体育館	4		●	●	●	●							
セーリング		全種別	千葉市	千葉市稲毛ヨットハーバー	4		●	●	●	●							
ウェイトリフティング		成年男子 少年男子 女子	小山市	小山市立体育館	5						●	●	●	●	●		
ハンドボール		全種別	栃木市	栃木市総合運動公園総合体育館	5						●	●	●	●	●		
				学校法人國學院大學栃木学園第二体育館	2						●	●					
				日立栃木体育館	2						●	●					
			下野市	下野市石橋体育センター	5						●	●	●	●	●		
			野木町	野木町立野木中学校体育館	3							●	●	●			
自転車	トラック・レース	成年男子 少年男子 女子	宇都宮市	宇都宮競輪場	4					●	●	●	●				
	ロード・レース		那須町	那須町特設ロードレースコース	1									●			
ソフトテニス		全種別	那須塩原市	那須塩原市くろいそ運動場テニスコート	4							●	●	●	●		
卓球		全種別	鹿沼市	TKCいちごアリーナ（鹿沼総合体育館）	5	●	●	●	●	●							
軟式野球		成年男子	宇都宮市	栃木県総合運動公園硬式野球場	4							●	●	●	●		
				宇都宮清原球場	4							●	●	●	●		
			日光市	日光市日光運動公園野球場	1							●					
			小山市	小山運動公園野球場	2							●	●				
			矢板市	矢板運動公園野球場	1							●					
			益子町	益子町北公園野球場	2							●	●				
相撲		成年男子 少年男子	大田原市	栃木県立県北体育館	3	●	●	●									
馬術		成年男子 成年女子 少年	那須塩原市	地方競馬教養センター	5						●	●	●	●	●		
フェンシング		全種別	上三川町	上三川町体育センター	4		●	●	●	●							
柔道		成年男子 少年男子 女子	宇都宮市	（仮称）総合スポーツゾーン新武道館	3								●	●	●		

競技（種目）	種別	会場地	競技会場	競技 日数	競技日程
綱引	－	大田原市	栃木県立県北体育館	2	6月25日（土）～6月26日（日）
武術太極拳	－	鹿沼市	TKCいちごアリーナ（鹿沼総合体育館）	2	9月24日（土）～9月25日（日）
パワーリフティング	－	芳賀町	芳賀町第二体育館	3	9月17日（土）～9月19日（月）
ゲートボール	－	那珂川町	小川総合福祉センター園地	2	9月 3日（土）～9月 4日（日）
グラウンド・ゴルフ	－	高根沢町	高根沢町町民広場	2	9月17日（土）～9月18日（日）

第 78 回国民スポーツ大会(佐賀県) 愛称・メッセージについて

【愛称】

SAGA2023

※表記の際は、国民スポーツ大会と分かるよう示します。

【メッセージ】

新しい大会へ。

すべての人に、スポーツのチカラを。

（趣旨）

令和 5 年(2023 年)に開催する佐賀大会が『国民スポーツ大会』として初めての大会となることから、佐賀県では『スポーツだからできること』にスポットを当てた『新しい大会』を目指しています。

また、佐賀県では、さがデザイン※¹や SAGA スポーツピラミッド(SSP)構想※²を独自の施策として積極的に推進しており、この大会を契機としてスポーツの新しい価値観を発信していきたいと考えています。

こうしたことから、愛称についても新しく生まれ変わるスポーツ大会に相応しい活用をしたいと考え、オリンピック・パラリンピックをはじめとする世界競技大会などで近年よく活用されている、シンプルな形をイメージして「SAGA2023」としました。

メッセージについても同様の理由から、「新しい大会へ。」と「すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインとして活用することとしました。

なお、既定書体は現在制作中であり、次回の国民体育大会委員会で報告予定です。

【選定経緯】

募集方法:全国公募

応募総数:1,254 点

選定方法:愛称については、令和元年 12 月 6 日に開催した国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県準備委員会第 6 回広報・県民運動専門委員会にて審議し、決定しました。
メッセージについては、同委員会での審議に基づき事務局において作成しました。

※1 さがデザインとは

さがらしい「モノ」と「コト」をデザインの視点で磨き上げ、新たな価値を付加することにより、人のくらし、まち・地域を心地よくし、豊かなものにすること。

※2 SSP 構想とは

佐賀から世界に挑戦する佐賀ゆかりのトップアスリートの育成を通じて、スポーツ文化(する、育てる、観る、支える)の裾野を拡大し、さらなるトップアスリートの育成につながる好循環を確立することで、スポーツの力を活かした人づくり、地域づくりを進めるプロジェクトです。このプロジェクトの長期目標としては、佐賀に根付く新しいスポーツ文化の確立を掲げています。

国民体育大会(国民スポーツ大会)の開催実績及び今後の開催予定

◆平成12年(第55回大会)以降の大会開催都道府県

2019/12/12

大会		本大会	冬季大会		
年	回		スキー	スケート	アイスホッケー
2000(H12)	55	富山	富山★	青森	
2001(H13)	56	宮城	長野	山梨	
2002(H14)	57	高知	新潟	北海道	
2003(H15)	58	静岡	北海道	群馬	
2004(H16)	59	埼玉	山形	青森	
2005(H17)	60	岡山	岩手	山梨	東京
2006(H18)	61	兵庫	群馬	北海道	
2007(H19)	62	秋田	秋田★	群馬	
2008(H20)	63	大分	長野		
2009(H21)	64	新潟	新潟★	青森	
2010(H22)	65	千葉	北海道		
2011(H23)	66	山口	秋田	青森	
2012(H24)	67	岐阜	岐阜★	(ス)岐阜★ (シ・フ)愛知	愛知
2013(H25)	68	東京	秋田	東京★(ス福島)	
2014(H26)	69	長崎	山形	栃木	
2015(H27)	70	和歌山	群馬		
2016(H28)	71	岩手	岩手★		
2017(H29)	72	愛媛	長野		
2018(H30)	73	福井	新潟	山梨	神奈川
2019(H31)	74	茨城	北海道		
2020	75	鹿児島	富山	青森	
2021	76	三重	秋田	ス・岐阜 シ・フ・愛知	愛知
2022	77	栃木	秋田	栃木	
国民スポーツ大会					
2023	78	佐賀	未定		
2024	79	滋賀	未定		
2025	80	青森	未定		
2026	81	宮崎	未定		
2027	82	長野	長野		
2028	83	群馬	未定		
2029	84	島根	未定		
2030	85	未定	未定		
2031	86	未定	未定		
2032	87	未定	未定		
2033	88	鳥取	未定		

【注】① ★印の都道府県は、国体本大会(夏秋季大会)と冬季大会を併せて開催。

② スケート競技会の(ス)はスピード種目を、(シ)はショートトラック種目を、(フ)はフィギュアスケート種目を表す。

国民体育大会における実施競技について

国民体育大会（以下「国体」という。）の実施競技は以下に基づき選定された競技を対象とし、4年毎に見直すこととする。

I. 実施競技の区分

国体の実施競技の区分は以下のとおりとする。

1. 正式競技

以下の「今後の国民体育大会の目的、性格について」に合致するとともに、わが国の各年齢層にわたって顕著な普及が認められ、国民の間に広く浸透している競技を「正式競技」として実施する。

<今後の国民体育大会の目的、性格について>

■「新しい国民体育大会を求めて ～国体改革2003～」(概要版)

21世紀の新しい国体を、より競技性の高い国内トップレベルの大会として構築し、ジュニアからトップアスリートを含む幅広い競技者層を対象に競技者の発掘・育成の場として、充実・活性化の促進

■「国体の今後のあり方プロジェクト提言骨子」

国民体育大会は、わが国スポーツ界の中核をなす競技者が一同に会し、都道府県対抗のもとに毎年開催される国内最大・最高の総合スポーツ大会とする。各競技会は国内を代表するトップクラス層の競技者により高い水準で競われ、国際的に通用する競技力向上の一翼を担うとともに、国民各層のスポーツへの関心を高めることを目的とする。

- (1) 公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）加盟競技団体の競技を対象とする。
- (2) 国体の志向性（競技志向）、性格（都道府県対抗）の下、天皇杯・皇后杯得点積算対象競技として実施する。
- (3) 対象競技は、後記Ⅱ-1-(1)、Ⅱ-2-(1)及びⅡ-3-(1)に記載の「選定基準」（16頁、18頁、20頁）に基づき審査を行い、選定する。
- (4) 「正式競技」の区分は次のとおりとし、1大会あたり40競技を実施するものとする。
 - ・ 「毎年実施競技」：毎年実施する競技
 - ・ 「隔年実施競技」：隔年で実施する競技
 - ・ 「開催地選択競技」：隔年で実施する競技のうち、当該年に隔年実施の対象となっていない競技の中から開催都道府県が選択する競技

2. 公開競技

競技の普及及び国民へのスポーツ推進の観点（地方スポーツの推進、国民の健康増進・体力の向上等）から、別に定める「国民体育大会公開競技実施基準」（23頁）により実施することができる。

- (1) 日本スポーツ協会加盟競技団体の競技のうち「正式競技」以外の競技で、実施競技選定時において「国民体育大会公開競技実施基準」（23頁）に定める要件を満たす競技を対象とする。
- (2) 実施対象競技団体が開催都道府県と協議の上、全国への競技の普及等を目的として実施することができる。
- (3) 天皇杯・皇后杯得点積算対象競技としない。
- (4) 開催及び参加に係る経費は、当該競技団体及び参加者の自己負担とする。

3. デモンストレーションスポーツ

開催都道府県体育（スポーツ）協会へ加盟または認定されている開催都道府県競技団体等が、当該都道府県内での普及等を目的として、別に定める「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」（24頁）により実施することができる。

4. その他

高等学校野球競技については、その取り扱いについて別途協議し、決定する。

Ⅱ. 各大会の実施競技

1. 第70回大会（平成27年）～第73回大会（平成30年）【第1期実施競技選定】

(1) 選定基準

1) 正式競技の基礎的条件

国体における「正式競技」については、次の①～③の事項すべてを満たしていることとし、本項目を満たしていない競技は、「正式競技」として実施しない。

① 日体協加盟競技団体の競技であること。

日体協に加盟している競技団体の競技であること。（準加盟は「正式競技」として実施しない）

② 47都道府県に中央競技団体支部組織があり、47都道府県体育協会に加盟していること。

中央競技団体支部組織について、次の条件をいずれも満たしていること。

ア. 全国47都道府県支部組織が発足し、中央競技団体へ加盟していること。

イ. 全国47都道府県支部組織が当該都道府県の体育協会へすべて加盟していること。

③ 国内外における競技の位置づけ。

国体における「正式競技」は、次のア、イ、ウのいずれかに該当する競技であること。

ア. オリンピック競技大会の実施競技・種目であること。

国民体育大会の競技選定時において、オリンピック競技大会で実施する競技であること。

イ. わが国古来の伝統的な競技であること。

当該競技は、日本古来の伝統文化として、相応の歴史を有する競技（武道）であること。

ウ. 国際的に普及し、より競技性が高く、国際競技力向上の一翼を担う競技であること。

本項目に該当する競技については、国際的な普及として、次の条件のうち4つ以上を満たしていること。

a) 当該競技の国際的な組織（IF）が結成されていること。

b) 当該競技の国際的な組織（IF）へ加盟している国・地域の統括組織（NF）数が50以上であること。

c) 当該競技の国際的な組織（IF）が、半世紀（50年）以上の歴史を有していること。

d) スポーツアコード〔旧GAISF（国際競技団体連合）〕に加盟している団体の競技であること。

e) アジア競技大会で実施されている競技であること。

2) 評価方法及び配点

「中央競技団体への基礎調査（書面調査）」、「中央競技団体へのヒアリング調査」及び「都道府県体育（スポーツ）協会への書面調査」の各結果に基づき、以下の配点により評価を行い、各競技の実施競技区分〔「正式競技」（毎年実施競技、隔年実施競技、開催地選択競技）、「公開競技」、「デモンストレーションスポーツ」〕を決定する。

① ※国内外における競技の位置付け

競技の位置付け		配点
ア. オリンピック競技大会で実施、もしくは実施が決定されている競技。		300点
イ. わが国古来の伝統的な競技（武道）。		100点
ウ. 国際的に普及し、より競技性が高く、国際競技力向上の一翼を担う競技。		100点

※ 上記については、重複して配点を行わない。

② 競技の普及状況及び組織体制・環境の整備状況

項目		書面調査	ヒアリング	小計
項目1	各都道府県において、本大会出場者を選抜する、又は代表チームを編成するための競技者数が、特にジュニア層を中心に各年齢層にわたって充実していること。	300点	—	300点
項目2	各都道府県において、効率的な大会運営に必要な競技役員、並びに厳正な競技運営を行う審判員の確保が十分できること。	200点	—	200点

項目		書面調査	ヒアリング	小計
項目 3	国民体育大会開催基準要項に定める全国 9 ブロックの単位または近隣地域で、予選会（都道府県予選及びブロック予選）が行える施設が整っていること。	100 点	—	100 点
項目 4	特にジュニア層の競技者を中心として、国民体育大会を通じてトップアスリートまで育成・強化する体制を整備していること。	100 点	200 点	300 点
項目 5	当該競技団体が、日体協と連携して国民体育大会の充実・発展について協力姿勢が認められること。	50 点	100 点	150 点
項目 6	当該競技団体が、日体協と連携して国民体育大会の安定的な運営について協力姿勢が認められること。	50 点	100 点	150 点
項目 7	ドーピング防止活動を積極的に行っていること。	50 点	100 点	150 点
項目 8	監督に関して、日体協公認スポーツ指導者資格保有の義務付けを行っていること。	50 点	100 点	150 点
小 計		900 点	600 点	1,500 点

(2) 評価結果（実施競技の区分）

1) 正式競技 ： 計 41 競技

(A) 毎年実施競技 ： 計 37 競技

〔本大会〕 計 34 競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、山岳、カヌー、アーチェリー、空手道、クレール射撃、ボウリング、ゴルフ

〔冬季大会〕 計 3 競技

スキー、スケート、アイスホッケー

(B) 隔年実施競技 ： 計 4 競技

〔本大会〕 計 4 競技

軟式野球、銃剣道、なぎなた、トライアスロン

〔冬季大会〕 該当競技なし

(C) 開催地選択競技

上記 (B) の競技のうち、当該年に隔年実施の対象外となった 2 競技の中から開催都道府県が 1 競技を選択して実施する。

2) 公開競技 ： 計 4 競技

〔本大会〕 計 4 競技

綱引、パワーリフティング、ゲートボール、グラウンド・ゴルフ

〔冬季大会〕 該当競技なし

3) デモンストレーションスポーツ

上記「1) 正式競技」及び「2) 公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日体協加盟（準加盟）団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」（24 頁）に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

4) 特別競技 ： 計 1 競技

〔本大会〕 計 1 競技

高等学校野球

〔冬季大会〕 該当競技なし

2. 第74回大会（平成31年）～第77回大会（平成34年）【第2期実施競技選定】

(1) 選定基準

1) 正式競技の基礎的条件

国体における「正式競技」については、次の①～③の事項すべてを満たしていることとし、本項目を満たしていない競技は、「正式競技」として実施しない。

① 日体協加盟競技団体の競技であること。

日体協に加盟している競技団体の競技であること。（準加盟は「正式競技」として実施しない）

② 47都道府県に中央競技団体支部組織があり、47都道府県体育協会に加盟していること。

中央競技団体支部組織について、次の条件をいずれも満たしていること。

ア. 全国47都道府県支部組織が発足し、中央競技団体へ加盟していること。

イ. 全国47都道府県支部組織が当該都道府県の体育協会へすべて加盟していること。

③ 国内外における競技の位置づけ。

国体における「正式競技」は、次のア、イのいずれかに該当する競技であること。

ア. 国際的に普及し、より競技性が高く、国際競技力向上の一翼を担う競技であること。

ただし、次の(A)、(B)のいずれかに該当する競技であること。

(A) 国民体育大会の競技選定時において、オリンピック競技大会での実施が決定している競技であること。

(B) 国際的に普及し、次の条件のうち4つ以上を満たしている競技であること。

a) 当該競技の国際的な組織（IF）が結成されていること。

b) 当該競技の国際的な組織（IF）へ加盟している国・地域の統括組織（NF）数が50以上であること。

c) 当該競技の国際的な組織（IF）が、半世紀（50年）以上の歴史を有していること。

d) スポーツアコード〔旧GAISF(国際競技団体連合)〕に加盟している団体の競技であること。

e) 国民体育大会の競技選定時において、アジア競技大会での実施が決定している競技であること。

イ. わが国古来の伝統的な競技であること。

当該競技は、日本古来の伝統文化として、相応の歴史を有する競技（武道）であること。なお、本項に該当する日体協加盟団体の競技は、以下のとおり。

【該当競技*】 相撲、弓道、剣道、銃剣道、なぎなた

※ 柔道は項目ア－(A)の該当競技として扱い、項目イと重複して評価は行わない。

空手道は項目ア－(B)の該当競技として扱い、項目イと重複して評価は行わない。

2) 評価方法及び配点

「中央競技団体への基礎調査（書面調査）」、「中央競技団体へのヒアリング調査」及び「都道府県体育（スポーツ）協会への書面調査」の各結果に基づき、以下の配点により評価を行い、各競技の実施競技区分【「正式競技」（毎年実施競技、隔年実施競技）、「公開競技」、「デモンストラーションスポーツ」】を決定する。

① ※基礎的な配点

競技の位置付け		配点
ア. 国際的に普及し、より競技性が高く、国際競技力向上の一翼を担う競技 (次の (A)、(B) のいずれかに該当する競技)		
(A) オリンピック競技大会での実施が決定している競技		300 点
(B) 国際的に普及し、次の条件のうち 4 つ以上を満たしている競技 a) 当該競技の国際的な組織 (IF) が結成されていること。 b) IF へ加盟している国・地域の統括組織 (NF) 数が 50 以上であること。 c) IF が半世紀 (50 年) 以上の歴史を有していること。 d) スポーツアコード (旧 GAISF) に加盟している団体の競技であること。 e) アジア競技大会での実施が決定している競技であること。		200 点
イ. わが国古来の伝統的な競技 (武道)		100 点
ウ. 上記ア及びイのいずれにも該当しない競技		100 点

※ 上記については、重複して配点を行わない。

② 競技の普及状況及び組織体制・環境の整備状況に関する配点

項目		書面調査	ヒアリング	小計
項目 1	各都道府県において、本大会出場者を選抜する、又は代表チームを編成するための競技者数が、特にジュニア層を中心に各年齢層にわたって充実していること。	300 点	—	300 点
項目 2	各都道府県において、効率的な大会運営に必要な競技役員、並びに厳正な競技運営を行う審判員の確保が十分できること。	200 点	—	200 点
項目 3	国民体育大会開催基準要項に定める全国 9 ブロックの単位または近隣地域で、予選会 (都道府県予選及びブロック予選) が行える施設が整っていること。但し、自然環境等の地理的条件に影響を受ける冬季競技は、別途考慮する。	100 点	—	100 点
項目 4	特にジュニア層の競技者を中心として、国体を通じてトップアスリートまで育成・強化する体制を整備していること。	150 点	150 点	300 点
項目 5	当該競技団体が、日体協と連携して国体の充実・発展及び安定的な運営を図ることについて協力姿勢が認められること。	100 点	100 点	200 点
項目 6	日体協が実施する協賛制度に協力が可能であること。	50 点	50 点	100 点
項目 7	ドーピング防止活動を積極的に行っていること。	75 点	75 点	150 点
項目 8	競技者の健康・安全管理に係る医学サポートを積極的に行っていること。	75 点	75 点	150 点
項目 9	監督に関して、日体協公認スポーツ指導者資格保有の義務付けを行っていること。	75 点	75 点	150 点
項目 10	当該競技団体が、全国的な統括団体として対外的にも説明責任を果たすことのできる、公正公平かつ安定的な組織運営がなされていること。	75 点	75 点	150 点
小 計		1,200 点	600 点	1,800 点

(2) 評価結果 (実施競技の区分)

1) 正式競技 : 計 41 競技

(A) 毎年実施競技 : 計 39 競技

[本大会] 計 36 競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

[冬季大会] 計 3 競技

スキー、スケート、アイスホッケー

(B) 隔年実施競技 : 計2競技

[本大会] 計2競技

銃剣道、クレール射撃

[冬季大会] 該当競技なし

※「正式競技」の実施区分のうち「開催地選択競技」については、休止とする。

2) 公開競技 : 計5競技

[本大会] 計5競技

綱引、武術太極拳、パワーリフティング、ゲートボール、グラウンド・ゴルフ

[冬季大会] 該当競技なし

3) デモンストレーションスポーツ

上記「1) 正式競技」及び「2) 公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日体協加盟(準加盟)団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」(24頁)に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

4) 特別競技 : 計1競技

[本大会] 計1競技

高等学校野球

[冬季大会] 該当競技なし

3. 第78回大会(平成35年)～第81回大会(平成38年)【第3期実施競技選定】

(1) 選定基準

1) 正式競技の基礎的条件

国体における「正式競技」については、実施競技選定時において、次の①～③の事項すべてを満たしていることとし、本項目を満たしていない競技は、「正式競技」として実施しない。

① 日体協加盟競技団体の競技であること。

日体協に加盟している競技団体の競技であること(準加盟は「正式競技」として実施しない)。

② 47都道府県に中央競技団体支部組織があり、47都道府県体育協会に加盟していること。

中央競技団体支部組織について、次の条件をいずれも満たしていること。

ア. 全国47都道府県支部組織が発足し、中央競技団体へ加盟していること。

イ. 全国47都道府県支部組織が当該都道府県の体育(スポーツ)協会へすべて加盟していること。

③ 国内外における競技の位置づけとして、次のア、イのいずれかに該当する競技であること。

ア. 国際的に普及し、より競技性が高く、国際競技力向上の一翼を担う競技であること。

ただし、次の(A)、(B)のいずれかに該当する競技であること。

(A) 国民体育大会の競技選定時において、オリンピック競技大会での実施が決定している競技であること。

(B) 国際的に普及し、次の条件のうち4つ以上を満たしている競技であること。

a) 当該競技の国際的な組織(IF)が結成されていること。

b) 当該競技の国際的な組織(IF)へ加盟している国・地域の統括組織(NF)数が50以上であること。

c) 当該競技の国際的な組織(IF)が、半世紀(50年)以上の歴史を有していること。

d) スポーツアコード[旧GAISF(国際競技団体連合)]に加盟している団体の競技であること。

e) 国民体育大会の競技選定時において、アジア競技大会での実施が決定している競技であること。

イ. わが国古来の伝統的な競技であること。

当該競技は、日本古来の伝統文化として、相応の歴史を有する競技(武道)であること。

2) 評価方法及び配点

「中央競技団体への書面調査」、「中央競技団体へのヒアリング調査」及び「都道府県体育（スポーツ）協会への書面調査」の各結果に基づき、以下の項目により評価を行い、各競技の実施競技区分【「正式競技」（毎年実施競技、隔年実施競技）、「公開競技」、「デモンストレーションスポーツ」、「特別競技」】を決定する。

② 評価項目

項目No.	大項目	中項目	配点
項目1	競技会の活性化	(1) 競技普及に向けた取り組み	130点
		(2) 国体へのトップアスリートの参加促進に向けた取り組み	
		(3) 競技会の広報活動	
		(4) 日体協の国体協賛制度や国体PR活動等への協力体制	
項目2	ジュニア世代(18歳以下)の充実	(1) ジュニア世代競技者を含めた(位置付けた)強化・育成・普及プランの策定状況	200点
		(2) ジュニア世代登録競技者数	
		(3) ジュニア世代競技者の増加に向けた具体的な取り組み	
		(4) タレント発掘に向けた取り組み	
項目3	女子スポーツの推進	(1) 女子競技者を含めた(位置付けた)強化・育成・普及プランの策定状況	200点
		(2) 女子競技者の増加に向けた具体的な取り組み	
		(3) 女性の競技者数・指導者数・審判員数	
		(4) 国体実施種目(参加人員)の男女比率	
項目4	スポーツ医・科学サポートの充実	(1) スポーツ医・科学を所管する委員会等の活動状況	120点
		(2) 競技者の健康・安全管理に係る規程・指針等の整備	
		(3) 日本アンチ・ドーピング機構への加盟	
		(4) アンチ・ドーピング活動の実施状況	
項目5	競技会の開催・運営能力	(1) 各都道府県における競技者数・指導者数・審判員数	150点
		(2) 各都道府県における競技役員(審判員以外)の確保状況	
		(3) 指導者、審判員等の養成計画および実施状況	
		(4) 各都道府県競技団体の組織体制強化に向けた連携・協力	
		(5) 各都道府県における施設整備状況	
項目6	競技団体のガバナンス	(1) 暴力根絶、セクハラ・パワハラ防止、受動喫煙防止等の取り組み	200点
		(2) 財務状況	
		(3) 役員紛争、不正経理、八百長防止等の取り組み	
		(4) 選手選考の適正化に向けた取り組み	
		(5) 外部からの意見等の反映	
		(6) 人材育成	
		(7) スポーツ仲裁を利用した紛争解決を行うことの意味表示	
合計			1,000点

(2) 評価結果（実施競技の区分）

1) 正式競技 ： 計 41 競技

(A) 毎年実施競技 ： 計 39 競技

[本大会] 計 36 競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

[冬季大会] 計 3 競技

スキー、スケート、アイスホッケー

(B) 隔年実施競技 : 計2競技

[本大会] 計2競技

ボクシング、クレール射撃

[冬季大会] 該当競技なし

※「正式競技」の実施区分のうち「開催地選択競技」については、休止とする。

2) 公開競技 : 計7競技

[本大会] 計7競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、
バウンドテニス、エアロビック

[冬季大会] 該当競技なし

3) デモンストラレーションスポーツ

上記「1. 正式競技」および「2. 公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日本スポーツ協会加盟（準加盟）団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストラレーションスポーツ実施基準」に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

4) 特別競技 : 計1競技

[本大会] 計1競技

高等学校野球

[冬季大会] 該当競技なし

第4期実施競技選定ワーキンググループ 委員名簿

2019.12.12現在

No.	役職	氏名	所属等
1	座長	菊 幸一	国民体育大会委員会副委員長／筑波大学
2	委員	大嶋 康弘	NF／(公財)日本陸上競技連盟 事業部長兼新規事業室長
3	委員	大橋 卓生	学識経験者（弁護士）／虎ノ門協同法律事務所
4	委員	小野 力	県体協／(公財)神奈川県体育協会 専務理事
5	委員	笠野 英弘	学識経験者／山梨学院大学
6	委員	岸川 剛之	NF／(公財)日本ラグビーフットボール協会 国体専門部長
7	委員	黒川 雅司	県体協／（公財）三重県体育協会 次長兼スポーツ推進課長
8	委員	三戸 一嘉	県体協／（公財）埼玉県体育協会 顧問
9	委員	鈴木 宏	NF／(公財)日本テニス協会 事務局長
10	委員	田口 大祐	NF／(公財)全日本弓道連盟 評議員
11	委員	濱野 勉	NF／(公財)日本スケート連盟 理事
12	委員	星野 一朗	国民体育大会委員会委員／(公財)日本オリンピック委員会 理事
13	委員	松永 敬子	国民体育大会委員会委員／龍谷大学
14	委員	山口 理恵子	学識経験者／城西大学
15	委員	横田 匡俊	学識経験者／日本体育大学

【オブザーバー】

1	オブザーバー	大野 敬三	国民体育大会委員会委員長
2	オブザーバー	鈴木 浩二	国民体育大会委員会副委員長／(公財)日本水泳連盟 常務理事
3	オブザーバー	川田 耕二	スポーツ庁 競技スポーツ課 課長補佐

国スポ第4期実施競技選定 ーコンセプトー

資料№12-3

2019.12.12

国スポの活性化

国、日体協(当時)及び開催地の都道府県は、国内トップレベルの総合競技大会である国民体育大会にオリンピック競技種目の導入を促進することなどにより、アスリートの発掘・育成を含む国際競技力の向上に一層資する大会づくりを推進する。

スポーツ基本計画

「国体ムーブメントの推進」を積極的に展開し、国体が「地域の活性化、スポーツ文化の浸透、アスリートの発掘・育成・強化」に寄与することを目指す。

21世紀の国体像

競技会

＜第3期競技選定のポイント(大項目)＞

- 競技会の活性化
- ジュニア世代(18歳以下)の充実
- 女子スポーツの推進
- スポーツ医・科学サポートの充実
- 競技会開催・運営能力
- 競技団体のガバナンス

※第2期のポイントを踏まえつつ、「スポーツ基本計画」「21世紀の国体像～国体ムーブメントの推進～」の内容を基に整理する。

＜第4期競技選定のポイント(大項目)＞

- 競技会の活性化(競技会のインテグリティ確保を含む)
- ジュニア世代(18歳以下)の充実
- 女性スポーツの推進
- スポーツ医・科学サポートの充実
- 競技会開催・運営能力

※「競技団体のガバナンス」については、『スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞』に基づく対応を基礎的な条件とする。

※第3期のポイントを踏襲し、第3期から第4期の間における各競技団体の国スポ活性化に向けた取り組み“実績”を評価する。

第4期実施競技選定における選定基準について

第82回大会（2027年）から第85回大会（2030年）における実施競技選定については、以下に示す内容により、総合的に評価を行う。

1. 正式競技の基礎的条件について

国スポにおける正式競技については、次の(1)～(4)の事項すべてを満たしていることとし、本項目を満たしていない競技は、「正式競技」として実施しない。

なお、(1)、(2)、(4)については、実施競技選定調査開始時（「実施競技選定調査開始時」とは、競技団体への書面調査実施通知日をいう）、(3)については所定の期日までに満たしていなければならない。

(1) 日本スポーツ協会（JSP0）の加盟競技団体の競技であること。

JSP0に加盟している競技団体の競技であること（準加盟は「正式競技」として実施しない）。

(2) 47都道府県に中央競技団体支部組織があり、47都道府県体育・スポーツ協会に加盟していること。

中央競技団体支部組織について、次の条件をいずれも満たしていること。

ア. 全国47都道府県支部組織が発足し、中央競技団体へ加盟していること。

イ. 全国47都道府県支部組織が当該都道府県の体育・スポーツ協会へすべて加盟していること。

(3) 当該競技を統括する中央競技団体が、「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」の遵守状況の自己説明及び公表を、スポーツ統括3団体（日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会）が定める方法により実施すること。

(4) 国内外における競技の位置付けとして、次のア、イのいずれかに該当する競技であること。

ア. 国際的に普及し、より競技性が高く、国際競技力向上の一翼を担う競技であること。

ただし、次の(A)、(B)のいずれかに該当する競技であること。

(A) 第32回オリンピック競技大会（東京）及び第24回オリンピック冬季競技大会（北京）での実施が決定している競技であること。^{*1)}

^{*1)} ただし、当該大会での実施が決定している種目を1つ以上、国スポにおいて実施すること。

(B) 国際的に普及し、次の条件のうち4つ以上を満たしている競技であること。

a) 当該競技の国際的な組織（IF）が結成され、活動実態があること。

b) 当該競技の国際的な組織（IF）へ加盟している国・地域の統括組織（NF）数が50以上であること。

c) 当該競技の国際的な組織（IF）が、半世紀（50年）以上の歴史を有していること。

d) 当該競技の国際的な組織（IF）が、GAISF（旧スポーツアコード）に加盟している団体の競技であること。

e) 第19回アジア競技大会（杭州）及び第8回アジア冬季競技大会（札幌）での実施が決定している競技であること。

イ. わが国古来の伝統的な競技であること。

当該競技は、日本古来の伝統文化として、相応の歴史を有する競技（武道）であること。なお、本項に該当するJSP0加盟団体の競技は、以下のとおり。

【該当競技^{*2)}】 相撲、柔道、弓道、剣道、空手道、銃剣道、なぎなた

^{*2)} 柔道及び空手道については「項目アー（A）」の該当競技として扱う。

※ 実施競技選定調査開始後、決定までの間に、コンプライアンス違反等にかかる処分により上記(1)(2)の基礎的条件を満たさなくなった場合、本実施競技選定の対象から除外する。

2. 評価方法及び評価項目

「中央競技団体への書面調査」、「中央競技団体へのヒアリング調査」及び「都道府県体育・スポーツ協会への書面調査」の各結果に基づき、以下の項目により評価を行う。

項目No	大項目	中項目
項目 1	競技会の活性化 (競技会のインテグリティ確保を含む)	(1) 競技普及に向けた取り組み
		(2) 国体及び競技会の価値向上、ブランディングの取り組み
		(3) 持続可能な競技会運営に向けた取り組み (サステナビリティ)
		(4) 競技会のインテグリティ (誠実性・健全性・高潔性) 確保に向けた取り組み
項目 2	ジュニア世代 (18 歳以下) の充実	(1) ジュニア世代競技者を位置付けた強化・育成・普及プランの策定・展開状況
		(2) ジュニア世代登録競技者数
		(3) タレント発掘に向けた取り組み
項目 3	女性スポーツの推進	(1) 女性競技者を位置付けた強化・育成・普及プランの策定・展開状況
		(2) 女性競技者・指導者・審判員の増加に向けた具体的な取り組み
		(3) 女性の競技者数・指導者数・審判員数
		(4) 国体実施種目 (参加人員) の男女比率
項目 4	スポーツ医・科学サポートの充実	(1) スポーツ医・科学を所管する委員会等の活動状況
		(2) 競技者の健康・安全管理に係る規程・指針等の整備
		(3) 競技者・指導者等への健康・安全管理の教育・啓発
		(4) アンチ・ドーピング活動の実施状況
項目 5	競技会の開催・運営能力	(1) 各都道府県における競技者数・指導者数・審判員数
		(2) 各都道府県における競技役員 (審判員以外) の確保状況
		(3) JSPO 公認指導者の活用状況
		(4) 各都道府県競技団体の組織体制強化に向けた連携・協力
		(5) 各都道府県における施設整備状況
		(6) 競技用具・器具の調達への協力
		(7) 競技会における安全管理体制の整備

第4期（第82～85回大会）実施競技選定に係る取り組みスケジュール（案）

2019年12月12日現在

年月	理事会・国体委員会等	ワーキング（WG）
2019年度	12月	●第3回国体委員会（12/12） 実施競技の選定基準（基礎的条件・評価方法・評価小目項目）承認 ○第5回WG（12/25） ・中央競技団体及び都道府県体育協会に対する書面調査内容（項目・評価方法・配点）の確定 ・中央競技団体に対するヒアリング調査内容、評価方法の検討等
	2020年1月	●第5回理事会（1/15） 実施競技の選定基準（基礎的条件・評価方法・評価項目）報告・了承 ◇第75回冬季大会（青森県）スケート・アイホ（1/29-2/2）
	2月	◇第75回冬季大会（富山県）スキー（2/16-19） ○第6回WG（2月下旬） ・中央競技団体に対するヒアリング調査内容、評価方法の検討等
	3月	●第8回国体検討小委員会（3/5） ヒアリング調査内容 確定 ●第4回国体委員会（3/5） 実施競技の選定基準（配点）承認 ●中央競技団体、都道府県体育・スポーツ協会に対する書面調査を実施
2020年度	4月	
	5月	○第7回WG（5月中旬） ・ヒアリング調査内容、評価方法等の確定、書面調査回収状況報告
	6月	●中央競技団体、都道府県体育・スポーツ協会に対する書面調査締切（6月下旬） ●中央競技団体に対するヒアリングを実施（～11/30）
	7月	◇第32回オリンピック競技大会（7/24-8/9）
	8月	◇東京2020パラリンピック競技大会（8/25-9/6）
	9月	◇第75回本大会（鹿児島県） 会期前（9/12-20）
	10月	◇第75回本大会（鹿児島県） 本会期（10/3-13）
	11月	
	12月	●第6回国体検討小委員会（12月中旬） 各調査進捗状況 報告 ○第8回WG（12月上旬） ・各調査結果のまとめ、総合評価
	2021年1月	◇第76回冬季大会（岐阜県・愛知県）スケート・アイホ（1月下旬） ○第9回WG（1月中旬） ・各調査結果のまとめ、総合評価 確定
	2月	◇第76回冬季大会（秋田県）スキー（2月中旬） ○第10回WG（2月中旬） ・第4期実施競技確定
	3月	●第4回国体委員会（3月上旬） 第4期実施競技選定の結果をもとに、第82回～第85回大会の実施競技を承認 ●第6回理事会（3月中旬） 国体委員会承認の実施競技 審議、決定 ●臨時評議員会（3月下旬） 第82回～第85回大会の実施競技を報告